

市民等意識調査(令和7年7月25日から8月10日)概要

資料2—1

①市民の視点（市民アンケート調査より）

【配布数】18歳以上の市民2,000人（無作為抽出） 【回答数（回答率）】610件（30.5%）

鎌倉市の良いところ	・良いところとして「歴史・文化」が約5割、「山の自然」「海の自然」がそれぞれ約3割で、歴史・文化と自然の一体感が良さにつながっています。
環境問題への関心	・非常に関心がある人が約2割、ある程度関心がある人が7割で、市民の約9割は環境問題への関心を持っています。
環境に関する取組の実施状況	・多くの人がごみの削減や省エネ行動に取組む一方で、再エネ利用や環境を守る活動に参加するなど、経済的負担や手間のある行動に取組む人の割合は低めです。
環境に良い取組を実践することの難しさ	・今以上に環境に良い取組を行うことの難しさを3割の人が感じており、理由として、個人だけで取組むことの限界や、効果があるかの不安等の意見が見られます。
リサイクル率が全国トップの認知度	・リサイクル率が全国トップであることを知っていた人は全体の3割に満たない状況で、約7割が知らなかったと答えています。
市として重点的に取組むべきこと	・ごみの散乱や落書きをなくすことが約8割、脱炭素化が約6割と多く、次いでごみを減らす、自然と触れ合う、野生動植物を守るといったことが、4割以上となっています。

②事業者の視点（事業者アンケート調査より）

【配布数】市内の事業所から1,000事業所（無作為抽出） 【回答数（回答率）】254件（25.4%）

環境問題への関心	・非常に関心がある事業者が約2割、ある程度関心がある人が約7割で、全体の約9割は環境問題への関心を持っています。
事業者としての環境保全の取組への考え	・「社会的な責任」を約6割の事業者が挙げる一方で、コストダウンやイメージアップ等の環境経営のメリットを考える事業者は少ない状況。
実施している環境関連の取組	・ごみの削減や節電は6～7割の事業者が取組んでいますが、一方で、再エネの活用、電気自動車等の導入、環境活動への参加等に取組む事業者は1割程度です。
環境保全の取組を実施する上での課題	・環境保全に取組む際の課題として、労務上の負担の増大や、知識・ノウハウの不足、コストや人材の確保の困難さが上位に挙げられています。

③環境団体の視点（環境団体アンケート調査より）

【配布数】市民団体90団体 【回答数（回答率）】16件（17.8%）

環境団体が行う活動の内容	・景観の保全と環境学習・啓発活動が約6割、地球温暖化の防止と緑地の保全、緑化の推進が約4割と、多様な目的で活動しています。
市や民間企業等との連携や協働の意向	・鎌倉市や民間企業、他の市民団体や神奈川県、小中学校など、多様な主体との連携・協働について、多くの団体が希望しています。
活動を続けていくときの課題	・団体のうち、約9割が人材の確保や後継者の育成、8割弱が地域や住民との連携を課題として挙げています。また、活動資金の確保も約6割の団体が課題としています。

④滞在者の視点（観光客アンケート調査（WEB方式）より）

【配布方法】WEB調査（最近3年間で鎌倉市を観光目的で訪れたことのある人） 【回答数】535件

観光に来る目的	・寺社・仏閣の拝観が約8割と多い一方で、花の鑑賞や山でのハイキング、海でのレジャーは1～2割と、自然とのふれあいを中心とした目的は現状では少なめです。
観光の際の交通手段	・鉄道が約6割と高い一方で、自家用車を使う人も約3割となっています。
清掃・美化活動への参加意向	・参加したことがある人は1割弱と少ないものの、今後参加してみたい人は約4割となっています。
来訪に際に行っている環境によい行動の実施状況	・ごみの持ち帰る人が約6割等、取り組みやすい行動が上位にみられますが、環境保全活動やボランティアに参加するという人も1割強見られます。
エコツーリズムへの関心と市への期待	・エコツーリズムに関心がある人は約6割にのぼり、歴史を知ることに加え、山や森林での自然体験や地元の食材を楽しむことの期待が5割以上と高くなっています。